

## 第4回新居浜市レジ袋削減推進協議会議事録

- 1 開催日時 平成21年10月21日(水) 14:00～15:45
- 2 開催場所 新居浜市役所6階 議員全員協議会室
- 3 出席者  
(新居浜市) 会長 加藤(環境部長)  
事務局 本田(ごみ減量課長)、近藤(ごみ減量課)  
(スーパー) (株)木村チェーン(永山)、コープえひめ(白川)、イオンリテール(株)(前川)  
(株)フジ(渡部、龍本、宮岡)、マックスバリュ西日本(株)(宇高、合田、山田)  
(株)ママイ(一色)、(株)マルナカ(横井)  
(ドラッグストア) (株)大屋マック本部(杉森)、メディコ21(三好)  
(株)レディ薬局(三橋)  
(関係団体) 新居浜商工会議所(小泉)  
(消費者団体等) にいはま環境市民会議(眞鍋、岡山)、にいはま消費者友の会(稲見)、  
グループさつき生活学校(原、定岡)
- 4 欠席者  
(スーパー) (株)マルヨシセンター  
(ホームセンター) ダイキ(株)  
(消費者団体等) 新居浜市女性連合協議会
- 5 報道関係  
8社
- 6 傍聴者  
1名
- 7 内 容  
(事務局)

みなさんこんにちは、定刻が参りましたので、ただ今から第4回新居浜市レジ袋削減推進協議会を開催いたします。

まず初めに、本日の出席状況ですが、マルヨシセンターさん、ダイキさん、それから女性連合さんは欠席との連絡を受けております。マルナカさんは少し遅れて出席いただけると、ご連絡を受けております。マスコミの方もおいでしておりますが、本協議会は公開を原則に開催いたしております。

それでは、以下議事は会長にお願いします。

(会長)

みなさんこんにちは。

大変お忙しい中、遠路遥々おいでいただいている方もおられますが、多くの方にご出席いただき本当にありがとうございます。

多くのスーパーで協定を結びまして、6月1日からレジ袋の無料配布を中止してから4カ月経ちまして、それぞれのお店でマイバッグ運動等も実施いただきレジ袋の削減に努めていただいておりますことに感謝を申し上げます。その状況について4カ月が経ちましたので、現状とかご苦労、今後どのように進めていくか等について充分皆さんと協議しながらできるだけ良い方向に進めていければと思っております。

今回から新たに新居浜市農業協同組合、株式会社コスモス薬品へ協議会への参加をお願いいたしました。新居浜市農業協同組合は新居浜産の野菜等を販売している「あかがね市」において6月1日からレジ袋の無料配布中止を実施いただいております。(株)コスモス薬品につきましては、新居浜市内でドラッグストア2店を運営されており、今回から本協議会への参加を依頼いたしましたところ、今回はどちらとも欠席ということです。

(株)コスモスさんは会社の方針により、協議会等へは一切参加していないということでございます。農協さんは他の協議と重なりがあったため、今回は欠席させていただくことのご連絡がございました。

それでは、平成21年度のレジ袋削減に関する広報予定に移らせていただきます。初めに新居浜市の広報予定につきまして事務局の方からご説明させていただきます。

(事務局説明内容)

①平成21年6月～8月の「マイバッグ持参率等」の実績報告

各店舗持参率等の平均値が約87%

②今後の広報予定

マイバッグ持参率等の実績を市政だよりへ掲載

市内イベント(太鼓祭り、農業まつり、はまさい)において広報用のマイバッグ(簡易的なナイロン製のもの)を各イベント主催者に配布していただく。

(会長)

各事業者、団体の方でもそれぞれご活動いただいていると思いますが、平成21年度の予定とかこういう事を実施したとか、何かご意見等ございませんか。

(コープえひめ)

コープえひめでは毎年6月と10、11、12月の3か月間、年に2回環境キャンペ

ーンということで、レジ袋の削減に関することだけではございませんが、E C Oな暮らしをしましょう。というような活動を行っています。その活動の中でマイバッグの持参運動に取り組んでまいりました。無料配布中止の6月以降は、それまで2割くらいの持参率だったんですけど、9割の持参率となり今回の取り組みは大変効果があったと思いますし、その中で今回ご提案いただきました行政のご協力、市民団体のご協力というのは大変大きくありがたいと思います。

(にいほま環境市民会議 眞鍋)

この87%という数字について、環境問題においては大変驚異的な数字であり、これだけできたということは、市民、事業者、行政が協力できた結果だと思うのですが、なお、欲をいうと残りの13%にどのような問題があるのかということですが。

(新居浜環境市民会議 岡山)

みなさん80%を達成できればいいのではないかと考えていたが、やっぱり新居浜市ってすごいなと感じました。お店の方の思いも消費者の方に伝わったのではないかと思います。ただ削減率の状況は少し停滞気味であり、半年経過後に何かアクションを起こす。といったようなことも必要ではないかと感じております。コープさんは環境キャンペーンを定期的に実施しているようですが他のお店ではどうなのか、そのあたりを少し聞いてみたいのですが。

(木村チェーン)

87%という数字は、6月1日から各事業所においてレジ袋の無料配布中止という方法をとったからこそ出た数字であります。しかしながら、お買い物をされるお客さまにとっては「面倒くさい」というお気持ちがあると思います。マイバッグは、私どもを含めどの事業所さんにおいても推進していますが、その「面倒くさい」のお気持ちの中で、数字だけ見れば9割近い数が出ていますが、お客様の中には、わざとホームセンター等でレジ袋を購入して車の中に100枚、200枚単位で入れている方もいます。果たしてレジ袋の削減が環境負荷の軽減につながっているのかという疑問が残ります。そういうところの協議を含めて、新たな形でE C O運動ができるというものが必要ではないでしょうか。レジ袋だけでいいうと今は平等ではありません。それぞれのお客さまの声で「あそこに行くとレジ袋が無料でもらえる。どうしてここはお金を取るの。」との意見が多くあります。これを直接説明するのは我々のレジであって、レジの職員が一生懸命説明している。平等ではない中で環境に関する問題を解決する新たな方法として、この先どういう形をとって行けばいいのか協議する必要があるという話も出ています。お買い物にマイバッグを持参することが環境にいいということは、お客さまに周知できていると思いますが、マイバッグを持参されていない13%という数字は「面倒くさい」とい

うものが表れているのではないかと思います。

(会長)

本当にご苦労されている現場の厳しさというものも出てきたのではないかと思います。公平性がないということでご説明しておきますが、マルナカ、マルヨシさんへはレジ袋無料配布中止の協定への参加についてお願いし、できるだけ協力いただくというようなお話もいたしております。各事業者の方ではお店で大変ご苦労されていると思いますが、そのようなお話でもかまいませんので何かございませんでしょうか。

(ママイ)

無料配布を続けているお店があるということで、お客さまの声として上がってくるのは「ここは袋がないといけないのね。」というもので、「まだ無料でレジ袋をくれるお店がある。」という思いが多くのお客さまの中にあると思います。そういう意味では市内の同一業態として統一して取り組んだ場合は90%を超すことは可能だと思います。また、ごみの収集日に無料配布しているスーパーさんのレジ袋がごみ袋として目立ってきているように思います。無料でもらった袋をごみ袋に使う方が多くいらっしゃる。レジ袋無料配布中止における不平等をいかに平等に近い形にしていくか、という部分が最終的に新居浜市でのマイバッグ等の持参率を上げる大元になってくると思います。

(会長)

ごみの有料化という問題がございますが、昨年まちづくり校区集会で説明した中で、新居浜市としてまだまだ他に取り組むべきことがある。ということで、校区集会でいただいた意見として、生ごみの処理とかごみの分別を充実させてリサイクルを推進する等が出ましたので、ごみの有料化を止めるということではなくそれらを先に進めていくということで、現在、新居浜市として取り組んでおります。

(イオン)

ジャスコ新居浜店の場合は車で少し走りますと西条市になりますので、当社の削減率のデータを見ますと、平日は比較的高いのですが土日祝日については大きく下がるという結果となっております。これは、西条市からのお客様にもたくさん来ていただいておりますので、西条市は新居浜市のような取り組みはされておられませんから、それが結果となって表れているのではないかと考えております。行政区域が違いますのでなかなか難しいとは思いますが、新居浜市を中心に周りの自治体の方へも声を掛けていただいておりますので、取り組んでいただければ、当社の場合は持参率が向上すると思いますのでお願いしたいと思います。

(フジ)

私どもは、マイバッグを持参されていない13%のお客さまというのは、基本的に反対意見の方だととらえております。4カ月経ちましてもお客さまからのクレームはかなり厳しいものをいただきますし、「レジ袋の無料配布を中止した小売業だけが悪い」といった意見が結構ございます。昨日も封筒で投書をいただいたのですが、非常に厳しい内容でして私どもといたしましてもどのように対応すべきか頭を悩ませているところでございます。ひとつは、レジ袋を有料にした経緯というものを、もう少し行政の方から市民の方へ啓蒙活動を行っていただきたい。その部分をクリアしなければ削減率を90%へ持っていくことは難しいのではないのでしょうか。私どもといたしましてもレジ袋の対策といたしまして、本末転倒になるかもしれませんが段ボール箱等を用意しております。段ボール箱はお客さまに使っていただいておりますが、大変困っておりますのが店に備え付けてある買い物かごがよくなっております。そのまま持って帰っておられるのではないかと思ひまして、買い物かごの数を数えてみたのですがかなり減っております。今までの3倍以上のスピードで減っております。

後、お客さまからよくいただく意見といたしましては、レジ袋を販売した5円の行方です。社内の意見としては、「お年寄りや子どもさんのお買い物については、レジ袋を無料配布してもいいのではないか。」というような意見もあります。とにかく、思い切って「レジ袋無料配布中止」に一步を踏み出して結果も出ているのですが、市民の方に納得いただけるような形でもう少し啓蒙活動に取り組んでいただければ、と感じているところです。少し失礼な言い方だったかも知れませんが、これが私どもの意見でございます。

(マックスバリュ)

当社は西日本エリアで事業展開いたしておりますが、現在、39の市町94店舗で同じような取り組みをさせていただいております。実はこの新居浜市については特殊なケースになっておりまして、ひとつは同じ食品スーパーで大きな2社が参加されていない。それは他の市町にはなくて、ほぼすべての事業者に同意いただいてこれまで大きな問題はありませんでした。もうひとつが、先ほどもありましたが市民の方が出されるごみ袋の問題です。こちらレジ袋がごみ袋として使えるというところは非常に少なく、市民の方もレジ袋がごみ袋として使えない中で「レジ袋の無料配布中止」を実施することがほとんどだったのですが、新居浜市ではこのふたつが重なっております。当社の方も削減率が85%ということで、実施している94店舗の中でも低い方ではないのですが、弊社の無料配布を中止している店に来られているお客さまというのは、当然趣旨を理解していただいて、「生活の中で環境に関する取り組みに協力しよう。」という姿勢でいらっしゃる方であると理解しておりますが、残りの方は先ほど言われたように、「面倒くさい」であるとか、「その時袋を持ち合わせていない」というのがあるとあります。

しかしながら、問題はその10数パーセントにあるのではなくて、同業で「レジ袋の無料配布中止」をされていないところがあって、そこは100%配布しているわけです。その数字というのはここには表れてこないですし、「レジ袋を減らすことで環境の取り組みに協力しよう。」といわれる方がいらっしゃる反面、「レジ袋は無料でいただいてごみ袋として活用する。」といわれる思いをお持ちの方もおられるのが事実だと思います。この新居浜市での取り組みをもっと進めていくためには、参加されていない同業の事業者さんにも協力いただいて、もっと言えば他の業界の事業者さんもこの後を付いて参加をされて、新居浜市の店ではどこにお買い物に行くときもマイバッグなり自分のかごを持って買い物に行っていただけのような形にもっていかないと、「その10何パーセントがどうだ。」という議論をしても、次のステップへはなかなか繋がって行かないのではないかと考えております。

今回、新居浜市の広報ということで、我々のお店に来店されていない方へ啓発していただいたことについては大変感謝をしております、そういったことをどんどん取り上げてもらって、我々のお店へいらっしゃる方へつきましても、この取り組みについて理解を深めていただいて協力してもらえそうな環境づくりということが必要であると考えております。

(会長)

マイバッグ運動というのは、それぞれの事業者さんで取り組んでいただいていると思います。これらについての感想とか現状というものを教えていただきたいのですが。

(レディ薬局)

6月からレジ袋の無料配布を中止されているということで、ドラッグストアとしても後ろ向きではなく前向きに取り組んでいきたいと思うのですが、「実際に実施してみてもどうか」というところと、「お客さまに対してどのような影響があるのか」というところがどうしても心配であり、そのあたりを本社の会議で検討しても、なかなか進んでいない状況がありますので、今、メディコ21さんと一緒に話し合いをしている中で、この取り組みがどのような形で進んでいるのかお話を聞かせていただこうと思ひまして今回参加させていただきました。

(メディコ21)

レディ薬局さんと同じで、現在ドラッグストアの方でも前向きに検討はしておりますが、スーパーさんですと「日々の食料品のお買い物」という形でお客さまの方も意識をしてマイバッグを持っていかれると思うのですが、当社のようなドラッグストアですと日々意識をして買い物をされるような業種ではないので、その時にお客さまがマイバッグを持って来られるかというところが非常に疑問が付くところがありますので、そのあたりが

踏み切れないところとなっております。

(会長)

6月以降どんな状況でしたか。無料配布を中止しているスーパーがある中でレジ袋を辞退するお客さまが増えたというようなことはございませんでしたか。

(メディコ21)

影響は特にはないと思います。

(マック)

私どもの店舗は、食品スーパーさんとかディックさんと併設して、ショッピングセンターとして店舗がありまして、お客さまの方から「ここはレジ袋がもらえるのか。」という声を私も何回か聞かせていただいております。そのようなこともございまして、当社でも今のところ本部の方でも検討しておりますが、レジ袋の無料配布を継続する状況となっております。

(マルナカ)

我々の会社の基本方針は、レジ袋の有料化には、なかなか参加できないという方向で動いております。その理由といたしましては、レジ袋を有料化するにあたっては「ごみを減らす」ということが当初の目的だったと思うのですが、それであればごみを有料化にする方が実際にごみは減りますし、レジ袋だけに限らずもっと減るのではないかと思いますし、今、新居浜市ではレジ袋がごみ袋として使えるということですので、私どもの会社ではレジ袋の無料配布は続けるということで考えております。ただ、協議会の最初の頃に申し上げましたとおり、条例化によって実施していただければ私どもはそれに従う。ということは現在も変わっておりません。また、6月からレジ袋の無料配布中止を他社さんで実施されておりますが、そのことで我々の売り上げが大幅に伸びてお客さまが増えたかという点、新居浜3店舗においては昨年並みか若しくは少しダウンしているという状況ですので、我々のところが3店舗数字が上がっているということはないと思います。

お客さまに関しましては、レジ袋を断るお客さまが以前と比べて増えて来ているのが事実だと思いますし、また、社員へは新居浜市がこのような取り組みを行っておりますので、「レジ袋は辞退しなさい。マイバッグを持参しなさい。」と指導しております。社員が昼休みの休憩で商品を購入する際も従業員専用のショッピングかごを使用してレジ袋をもらわないように指導しているところです。

(会長)

続きまして、平成22年度の活動についてでございます。新居浜市といたしましては、本協議会のレジ袋削減に関する取り組みが市民の方々に浸透し、取り組みの輪がさらに広がって行くように努力してまいりたいと考えておりますので、今後とも事業者、市民団体の方々へ、協議会への参加、協定締結を働きかけてまいりたいと考えております。女性連合の協定への参加につきましては、3月に不参加ということで正式に決定しておりますが、再度お願いしたところ、「性急に変更することはないが、取り組みの主旨には賛同している。」ということでございますので、時期を見まして協定への参加をお願いしたいと考えております。それでは新居浜市の活動予定について事務局から説明させていただきます。

(事務局説明)

①6月1日のレジ袋無料配布中止から1年間経過後に、市民の方がどのように感じているかアンケート（意識調査）を実施したいと考えている。

※平成22年度当初予算へ要望する。

※平成22年度5月末までの1年間の削減結果を市民の方へお示しして調査をしたと思うので、削減結果の報告をお願いする。

②市政だより等での啓発。

(グループさつき 原)

皆さん方のお話では、「みんなの足並みが揃わない。」ということがネックですから、この協議会として本社まで行ってお願いして、新居浜市全体が同じような状態になって活動できるようにしていただきたいし、皆さんから要望がありましたように「ごみの有料化」についても市民の声として市長さんの方へ上げていただければと思います。私はこれぐらい簡単に二酸化炭素を削減できる取り組みはないのではないかと考えております。しかし、お話を伺っていると、「大変だ」と感じている方もおられますし、この間もコープさんへ買い物に行くとかマイさんへ行くという場合には「マイバッグを持って行こう。」となるのだけれど、「イオンさんへ行くときは違うのよ。子どもや孫を連れて遊びに行こう」と思っていて、ついでにおかずでも買おうと思った時に、あっ、マイバッグ忘れてきた。ということがよくあるのよ。」と聞きまして、お店に対する市民感情もそれぞれ違うんだ。と思ったのですけれども「ナイロンの袋でもいいんですよ。」と言っているのだから、バッグの中にひとつふたつ入れたりしておけばこれぐらい簡単に取り組めるものはないと思うのですが、「なかなか難しんだな」と実感しているところがございます。

(グループさつき 定岡)

いろんな事業者さんのお話を伺いまして、「レジ袋の無料配布を中止することは難しい

のだな。」と実感いたしました。消費者の立場からしますと、先日、私も買い物にバッグをひとつだけ持って行きましてバッグに商品が全部入りませんでした。普段、レジ袋の有難味とかは感じたことはないのですけれども、やっぱり「袋がないと困る。」ということも実感いたしました。日頃から思っているのですが、やっぱりごみは有料化の方向へ進めていただいたらいいのではないかと思います。なるべく安くしていただいて、市民の私たちもごみを出さないようにライフスタイルを見直すということが原点ではないのかなと思います。ごみを少しでも減らすように市民一人ひとりが生活を見直すと言いますか、「ごみはレジ袋では出せない。」というようになりますといろんな業者さんも平等に取り組めると思いますし、ごみ出し以外にも使い道があると思いますのでレジ袋に限らず「物を大切に作る」ということを広報等を通じて市民へ徹底していただけたらと思います。

(消費者友の会)

87%という数字につきましては、皆さんのご努力ということだと思うのですが、巷の声を聞きますと、「あそこはレジ袋をくれるから今日は買い物へ行こう。」とかいう方がちらほらいます。そうなりますと同じ値段のものであれば「レジ袋を下さる所へ行こう。」ということになると家庭のごみが全然減らない。皆さん平等に「あそこへ行っても、ここへ行ってもレジ袋を持参してください。」というように市民の方へ声掛けしないといけないと思います。業者の方々の協力も要りますがこのように考えております。

(にいはま環境市民会議 岡山)

やはりごみの有料化というのは、将来の方向性としてはやるべきだと思います。業態が異なるためドラッグストアの方が、レジ袋の無料配布中止を実施するのは難しいと実感しておりますが、「新居浜市ではどこへ行ってもお買い物にはバッグが必要。」という意識を広めていかないと、「この店は、あの店は」というようにバラつきがあるようではちょっと困ると思います。また、「良くみんな賛成したね。新居浜市ってすごいね。」とよく言われます。あと、実施しているお店では1年経過後に何かアクションを起こす。というのはどうでしょうか。「6月にうちの店に袋を持ってきていただくと何かプレゼントを差し上げる。とかアクションを起こすと違うよ。」と言われました。これはお店のことですからお願いはできませんが、そういう考えを持っている方もおられますので「1年目に何かする。」ということは面白い取り組みだなと思っております。

(にいはま環境市民会議 眞鍋)

学校の成績でもそうですけれども、30、40点の人を60、70点にすることは易しいんですけれども、80点の人を90点にするのはものすごく難しい。90点を100点に、というのは不可能に近い。だからどの辺を目標にするか。しかも30、40点を

70点にすることは、そうしようと思う人にそうするからできるのだけれども、90点を100点にもって行くのは無理に持って行くわけですからその努力は至難の業で、レジ袋無料配布中止の場合、根本的に反対の15%ほどの人を賛成に持って行くわけですから本質的に難しいと思っています。見方を変えますけど、集める側からしてレジ袋の無料配布中止以降、ごみ袋として出されるレジ袋は減ったのでしょうか。その辺り判りますか。

(事務局)

データがないので数字は出ません。

(にはま環境市民会議 眞鍋)

今の状況では、ごみ出しのための専用の袋を買ってきて出す必要がありますから、増減が分かるデータがないのであれば、どこかでレジ袋をやりくりしてごみ出しに使用していると思われれます。実情はどうなのか、我が家にも未だ以前のレジ袋が残っているのですが。

(会長)

丁度、私の家の前がステーションになっていますが、確かに無料配布中止以降、ほとんど45リットルの大きなごみ袋であり、レジ袋はあまり見かけなくなりました。

(にはま環境市民会議 眞鍋)

確かに我が家で考えても今までの可燃ごみは、ほぼ生ごみだけだったのでレジ袋で済みましたが、分別の変さらにより可燃物の種類が増えたのでレジ袋では間に合わなくなっています。ついでですけれど、新居浜市が作った広報用の袋は何枚作ったのですか。

(事務局)

3,000枚です。

(にはま環境市民会議 眞鍋)

これは予定しているイベントに使用して終わりですか。

(事務局)

そのイベントで無くなれば終了ですが、残れば他のイベントで使用していただくことになります。3,000枚無くなれば終わりです。

(にいほま環境市民会議 眞鍋)

色々啓蒙しているわけですが、これ以上何ができるのか考えているところです。

(商工会議所)

買い物にはマイバッグを使っていますが、忘れた場合等はレジ袋を購入せずにマイバッグを購入しているのがマイバッグが増えている状況です。新居浜市では当たり前になっている「レジ袋がごみ袋に使える。」ということが、この活動の一番のネックだと思いますので、新居浜市の方でごみの有料化に取り組んでいただければと考えております。

(レディ薬局)

レジ袋の削減につきましては、検討しては後退し、検討しては後退しの繰り返しで、やらないという訳ではないのですがどのように実施すればスムーズに行くかという所を今考えているところですので、「今からこうします。」とは言えないのですが、新居浜市に限らず広島県の方でも進めている話でもありますし、やっているところもあるということなのでその辺りの状況を検討したうえで考えていきたいと思っております。

(メディコ21)

広島県の方でも、レジ袋無料配布中止が広がっているのですが、私どもも本社が松山にありまして広島、新居浜で少し温度差があるように思います。もう少し松山市さんや他の企業さんにも働き掛けをして欲しいと思っております。私どもの広島の店舗では、未だ無料配布を実施しておりますが、お客さまの方から「未だやっているの。」との声をいただいております。そのような土壌を作っていただければ異業種なんですから参加しやすくなると思っております。

(マック)

私どもが出店している地域で、このような取り組みをしているのは新居浜市だけなのですが、「絶対にやらない。」という訳ではなく前向きには考えております。ドラッグストアは取扱商品等がスーパーさんとは異なってきますので難しいところがありますが、少量や小さい商品等はシールで対応する等の取り組みは全店でやっております。また、先ほどから「ごみの量を減らす。」ということが意見として出ておりますが、まずは根本的な所から取り組む、改善していく必要があるのではないかと感じております。

(マルナカ)

私どもは、是非とも行政に条例化で対応していただきたいと考えております。また、お客さまが「レジ袋を辞退して白い目で見られない。レジ袋を辞退するのが当たり前。」の雰囲気をごどのようにして作っていくのかということに関して、今後我々の方で取り組

んでいきたいと考えております。

(ママイ)

同一事業者、他事業者でもいいのですが、平等なスタンスでの浸透と「ごみの有料化」、これは避けて通れないと思うのですが、その進捗を早めていただきたいと思います。

(マックスバリュ)

当社とジャスコさん、イオングループにつきましては、有料で販売させていただいたレジ袋に関しては、販売価格の5円から仕入れ原価、消費税等を除かせていただいた部分を収益と考えて、その半分はグループ全体で二酸化炭素排出権を購入し国へ寄付する、残り半分はそれぞれレジ袋削減に取り組んでいる地域の行政さんへ寄付させていただきたいと考えております。他の事業者さんはそれぞれの考えがあると思いますが、イオングループはそうのように考えておりますので是非その受け皿を作っていただきたい。できれば今年中に「どこに納めて、こういう形で使おう」というような話し合いができればと考えております。レジ袋削減に協力いただく方が増えれば収益金は減ることにはなるのですが、決して購入いただいた部分は利益として企業が取り込むのではなくて地元の方へ還元させていただくので、その受け皿をご用意いただきたいと考えております。

(会長)

行政の方の寄付の受け皿といたしましては、基金が考えられるのですが、基金につきましては「議決を受けて設置しなければならない。」となっております、ここで今すぐにお答えできない部分がございます。しかしながら、現在皆さんに環境保全に熱心に取り組んでいただいておりますので、新居浜市環境部といたしまして「環境保全基金」の議案を3月議会へ出していきたいと考えております。今の段階で「できる・できない」につきまして明言できませんが、継続して環境保全に取り組んでいくために必要であると考えておりますので検討していきたいと思っております。

(フジ)

お願いしたいのは、レジ袋削減で皆さんに協力していただいた成果によって、環境面でこのような成果があったとか、寄付によってこれだけ植樹したとか成果を具現化していくことが必要だと思います。それが大きな啓蒙活動に繋がって行くのではないかと思います。私どももそういう部分で協力させていただきたいと考えております。

もう一点は、愛媛県の方もレジ袋の削減に向けてこのような会を設けて活動されているようですけれども、やはりごみ出しの問題があって、「消費者、生活者の方に負担がどのようにかかるのか。」と言った時に、「ごみ袋を買わなければならなくなる。」という負担の解決策を考えて行く必要があると思っております。広島県の方ではごみ出しの指定袋とし

て我々のレジ袋も指定されていたのですが、レジ袋が有料化になりまして新居浜市と同じように5円で販売しておりますが、行政の方が用意している同じサイズの袋を見ますと10円くらいになります。我々のレジ袋はコストの面もございましてギリギリまで薄く作っておりますので、そういった面で、ごみ袋を有料化する場合には素材の問題とかいろんな面で検討していかないと「本当にCO<sub>2</sub>が減るのか。」と言った局面も出てくると思います。生活者の負担の問題と併せて考えておく必要があると思います。

それと、新居浜市でのこの活動については愛媛県で初めての取り組みですし、今後この取り組みが県全体に波及していくかどうかの足掛かりになっておりますので、この活動をもう少し活性化させる中で、県のリード役を担っていただきたいと思います。特に新居浜市の場合ですと西条市、四国中央市と隣接した生活圏ですので、積極的に他市へ広げていかないと、今後いろんな矛盾が出てくる可能性があると思いますので、積極的に早く推進していただきたいと考えております。

先ほどご意見にありました、マイバッグ持参者の方へ何らかのお礼、メリットと言いますか、ずっとはできないまでもイベント的なものは我々が考えて行かなければならないと思いますので、検討させていただきたいと思います。

#### (イオンリテール)

マックスバリュさんがおっしゃられた収益の使い道と言ったことですか、レジ袋の辞退率を店頭で掲示するという形で、今ご協力いただいているお客さま、そうでないお客さまにつきましても行政の方と一緒に地道に啓蒙活動、PRを続けて行くしかないと感じております。

#### (コープえひめ)

他の事業者さんと同じように現場では苦戦をしております、現在のような経済状況の中で生協といえども事業を担っておりますので、明らかに無料配布されている店舗の近隣の店舗ではお客さまの数が減少しているという現状がございまして、ですので、地域の事業者せめてスーパー業態は全事業者が参加というようにして行かないと「なかなか大変だ」という現場の声もあります。先日、毎年実施している市長との懇談会を実施させていただいて、その中で「レジ袋の無料配布中止」の話も出ました。この活動はごみ削減の一環として実施している訳で、レジ袋にもコストは掛っているしCO<sub>2</sub>の問題もありますし、先ほど原さんが言われましたように一番身近な環境活動ですので、そのことで「みんなの環境意識を高めて行こう。ECOな暮らしを広げて行こう。」と取り組んでいる訳ですが、ごみを総量的に減らすためには、やはりごみの有料化と一緒に取組んでいかなければレジ袋の削減だけでは無理があるということは市長へもお願いいたしました。その中で、「市民の方の大きな反対はある。」と言われまして、市民の方々が「そうしましょう。」という風にならなければなかなか前進しないというのがあるよう

ですので、コープとしても平成22年度の取り組みの中で今までもやってきたのですが、さらに市民の方々、組合員の意識を高める啓蒙活動を地道に続けていく必要があると思っておりますし、年間2回の取り組みでは、店頭で「なぜマイバッグの持参運動を実施するのか。」ということの呼び掛けについても引き続き取り組んでまいりたいと思っております。

(木村チェーン)

やはり不平等という部分は大きいと思います。やはり市としてごみの有料化を先にせずレジ袋の無料配布中止を協定で実施したという部分は、参加した我々にとっては言葉は悪いんですけど「魔女狩りにあった。」という状態です。みんながきちんと参加できる方法という部分を平成22年度は検討していただきたい。それは「レジ袋無料配布中止ということに参加」ということではなく、環境的にやるのであれば「レジ袋をリサイクルする。」という形です。レジ袋はそのままごみ袋として使ってごみとなりますが、レジ袋はレジ袋に変わる素材ですので、新居浜独自のレジ袋のリサイクルというものを検討してはどうでしょうか。また、レジ袋に関しては我々にとっても、他のスーパーさんにとってもレジ袋を製造している企業があるのですから、新居浜市にとっては福助さんという企業は大切な存在ではないのでしょうか。その福助さん自身もリサイクルの方法を独自で持っておりますからそういう部分を検討して新たな形づくり。例えば全員のレジ袋が同じレジ袋だったら。企業ごとにレジ袋にロゴを入れておりますが同じレジ袋に統一して「マイバッグを忘れた方には無料でお貸しします。」というようにすれば全社が参加できるかもしれません。そのようなことをもう一度検討しなおしてみる時期ではないかと思っております。

先ほど、ごみステーションに「45リットルのごみ袋が多い。」という意見がありましたが、我々の目で見れば無料配布しているところのレジ袋が目立ってきていると思います。ごみステーションに出されているレジ袋を見て商圈を調べるのも一つの調査方法ですから、そのことは現実にございます。新居浜の小売業界、コンビニ、ドラッグストア等も含めて、新居浜でできる最高の形という部分を、リサイクルを含めて考えて行くべきではないでしょうか。

(会長)

スーパーさんがレジ袋をリサイクルするというのはどういう形でされるのでしょうか。

(木村チェーン)

回収ボックスです。

(会長)

レジ袋のリサイクルについて皆さんは現在どのような状況でしょうか。

(木村チェーン)

生協さんはレジ袋を入れている袋を回収しています。

(コープえひめ)

共同購入の袋を回収しています。

(会長)

だいたいごみ袋に使う方が多いけれど、まだそれよりも余るということですか。

(木村チェーン)

レジ袋は消耗品なので、使えなくなったら回収してリサイクルするということです。平成22年度に向けて考えて行きたいということです。

(会長)

それは独自でやって行くということでしょうか。

(木村チェーン)

新居浜市としてやれば新しい形になって行くのではないのでしょうか。

(会長)

みなさん何かご意見はございませんでしょうか。

(フジ)

前からそういう話がありまして。名古屋の方ではレジ袋の有料化をセットでされているスーパーはございます。私どももそういう話があったのですが、基本的にはマイバッグの持参を推進していく中で、片方でリサイクルしましょうということは、反対に言えば「使ってもどんどんリサイクルして行く。」ということですので、今の状況は無料配布中止を優先して活動しているというところなんです。現実には名古屋のスーパーさんが併用してやられておりますから、マイバッグの持参を推進しながら一方ではレジ袋を回収するということが実施されておりますが、愛媛県、広島県の状況でいいますとマイバッグの持参率を高めるために、レジ袋の無料配布中止を優先して進めているといった状況です。

(フジ)

実際は、他県で実施されている場合はごみが有料化されていて指定袋でなければごみが出せない地域で実施されておりまして、マイバッグ等を忘れてレジ袋を購入した時に、レジ袋はごみ出しに使えませんので、「ごみとして捨てるのであればリサイクルしましょう。」という形で実施されています。ですからごみの有料化なしでレジ袋のリサイクルを進めるということになると、レジ袋が使われる量は無料配布中止と比べて当然増えると思いますので、なかなか使用量の削減にはつながらないのではないかと思います。ごみ袋として出さなくなるかどうかは何とも言えませんし、リサイクルの際に「有料で買います。」という風にすれば減るかもしれませんが、なかなかそのようなことは難しいのではないかと思います。

(フジ)

ダイキさんは現在回収されていると思います。取扱商品がスーパーとは異なりますので「無料配布中止は難しいがレジ袋の回収で努力している。」というようには聞いております。また、地場で福助工業さんという立派な企業がありリサイクルの仕組みを作られておりますから、レジ袋のリサイクルということも今後の検討課題であると思います。

(いはいま環境市民会議 眞鍋)

レジ袋はプラスチック容器包装にあたるのですか。

(会長)

そうなります。

(いはいま環境市民会議 眞鍋)

それなら、今の新居浜市の新しい分別方法だとプラスチック容器包装で収集してリサイクルされるということになるのですね。

(会長)

そうなりますが、今言われているのはレジ袋をリサイクルしてレジ袋にするということです。新居浜市で収集したプラスチックの容器包装類は、汚れなどもございますのでレジ袋以外の製品にリサイクルされることになると思います。

(いはいま環境市民会議 眞鍋)

以前から思うんですけど、もしごみを有料化した場合に指定の袋を作ることになると思いますが、その時には廃品利用的な袋を使えば少しは助かるのではないのでしょうか。今のレジ袋は透明化したものですからプラスチックの利用からするともったいない話

なので、ごみになるものであれば使い捨てになるわけですから不透明を覚悟して廃品プラスチックを材料として使えば消費の観点からすると少しは助かると思います。そのような発想も有料化する場合には必要になるのではないのでしょうか。

(グループさつき 原)

何でもそうですけれども、作る時にCO<sub>2</sub>が出ますし運搬する時にも出ますしリサイクルする時にも出るんですよ。だから今、しきりに環境省でもリサイクルは3番目、4番目で「リデュース・リユースしましょう。」と言われていますが、いろんな場合に「これでないといけない。」というものはないと思います。ですからリサイクルということもひとつの選択肢ではあると思いますが、基本的にはレジ袋を減らす、レジ袋を使わないようにすることが基本だと思います。それから「もっと選択肢がないかな。」と言った時にそういったことも必要だとは思いますが、最初からそのような抜け道的なことをいうと前に進まないのではないかと思います。

(マックスバリュ)

レジ袋のリサイクルについては、現状では実施しておりません。レジ袋を削減するという方向で動いておりましたので、「そのような話もあるのだな。」というところです。

(会長)

レジ袋のリサイクルをみなさんで推進するということについてはどのようにお考えでしょうか。

(コープ)

現在9割の方が持参されておりますけれど1割の方が5円で買われておりますし、「そのレジ袋はどうなっているのか」と考えると、そこで渡すレジ袋はリサイクルできるものにしてもいいのではないかと思います。ただ、眞鍋先生が言われるように100%というのは無理な話なので、そこで渡すレジ袋をリサイクルするという方法も運動をもう少し広げて行く意味ではいいのではないかと思います。

(マルナカ)

この間愛媛県のアンケートがあったのですが、その時には当社としましてはレジ袋のリサイクルは考えておりますと回答しております。

(会長)

協議会の皆さんがレジ袋のリサイクルに積極的に取り組むということに反対の方はおられないですか。レジ袋の無料配布中止についても相当苦勞されている部分もございま

すので、皆さんが反対でないのであれば協議会としてできるだけ推進するという方向は  
どうでしょうか。

(グループさつき 原)

マイナスではないでしょうか。今まで活動してきた方向から大きくマイナスになると  
思います。マイバッグの持参率等の設定を80%にしたときに、この新居浜では難しい  
と思いました。私どもは小さいグループですが、これまでどんなに頑張っても持参率は  
20%にもなりません。しかし、今回の結果を見てみると大変高い数字となっております。  
87%の平均というのは実にすごいことだと思います。これだけ進んでいる  
のにこれをリサイクルしましょうということになると駄目になると思います。

(会長)

色々なご意見があると思いますが、今後の課題とすることよろしいでしょうか。今  
後も色々な角度から意見を出し合いながら考えるということは大切だと思いますが、こ  
こで確信を持って決定することは困難ですので次の課題ということよろしいでしょ  
うか。

(コープ)

もし他でそのようなことを実施している事例があるのでしたら調べてみるのも良いの  
ではないでしょうか。

(会長)

もしそのような事例があれば教えていただいて、協議会として取り組むということも  
検討できると思います。

(にいはま環境市民会議 眞鍋)

ひとつ来年度の企画として、今年6月にやったような市民活動としての店舗でのキャ  
ンペーンですが、年中行事として定期的にするのが効果的なのであればやって行けば  
いいのではないのでしょうか。

(各事業者)

お願いしたいと思います。

(会長)

協議会等で皆さんのご意見をお伺いして計画して行きたいと思います。

(グループさつき 原)

レジ袋削減の結果、いかにCO<sub>2</sub>削減しているかということをもっともっと積極的に市民へ広報して、マイバッグを持って行くだけで大きな効果があるということを色々な場所で広報するべきだと思います。

(会長)

事務局の方から市民の方から寄せられる意見等についてご説明したいと思います。

(事務局)

現在のレジ袋の削減を、CO<sub>2</sub>では何トン、石油量に換算すると何リットル削減、節約できました。ということを市政だより等で広報しておりますが、市民の方から「逆にレジの後方に備え付けのロール式のナイロンの袋や購入したごみ袋が増加したのではないか。レジ袋の削減分と差し引きした数字を出さなければCO<sub>2</sub>の本当の削減量はわからない。」との意見を多くいただいています。例えば、「ロール式のナイロン袋が以前と比べて何枚増えた。」等の数字を出すことは可能でしょうか。この活動は「身近にできるレジ袋を削減してCO<sub>2</sub>、ごみを減らしましょう。そのためにライフスタイルを変えて行きましょう。」という取り組みです。と市民の方へはご説明し、ご理解いただいていると思いますが、増加した他のナイロン袋等との比較は可能でしょうか。

(コープ)

おっしゃっている数字は出るとは思うのですが、ただこの活動の主旨は「無料で配布していたレジ袋も石油をこれだけ使っている。CO<sub>2</sub>をこれだけ排出している。」ということを認識いただいて、それをマイバッグにすることで「ごみもこれだけ減った。」ということに繋げていくことが目的だと思いますので、比較した数字を出すことに意味があるのかどうか少し疑問があります。

(フジ)

実際、ロール式のナイロン袋や購入いただくごみ袋の数は増えています。ただそれは、必要な部分に使われているのであって、レジ袋が無料で配布されていた時の、何も使われないまま捨てられているものは少なくとも減っていると思います。このような取り組みは当初から比べますと第2段階、第3段階へ入ったと思います。消費者、生活者の方から、「これはもともと商品代金の中に入っていたのだから、無くなったら商品が安くなるのね。」というご質問をいただくくらい非常に興味を持たれております。そういった意味では、そのようなことも少しずつ論理的にも明らかにすることは必要ではないかなと思います。確かに色々聞きますと、「赤ちゃんがおられる家庭では非常にレジ袋が便利」だと、だからレジ袋タイプの袋を販売すれば売れる訳です。ただこれは必要な部分に使

われて無駄な部分は減っていることだと思います。この辺りの考え方は、我々商品を販売する当事者としても、今後継続して活動していくためには整理しておく必要があると考えています。

(にいはま環境市民会議 岡山)

ロール式のナイロン袋が出る枚数は、買い物の状況を見ても明らかに増えていると思います。

(フジ)

ただロール式のナイロン袋はレジ袋よりはるかに薄いですし、レジ袋1枚に対して20枚程度の比率になります。

(にいはま環境市民会議 眞鍋)

デジタル化するのもいいのですが、あまり細かくすると技術論になってしまう。むしろ、ある程度アバウトに精神論として整理した方がいいと思います。「レジ袋の無料配布」という習慣は長年かかってきたもので、それをたった1年の活動で元へ戻すことは無理な話です。やっぱり、30年かかって習慣となったものを元に戻すには30年かかるということです。ですからその辺はあまり細かく見ないで、レジ袋だけに着目すればいいのではないのでしょうか。

(会長)

色々ご意見をいただいて、事業者の方が大変ご苦労されていることを実感できたと思います。また、市民の方には評価していただいている部分があると感じております。新居浜市としましても非常に責任があるということを実感しており、さらにごみを少なくする運動を進めて行かなければならないと思います。さらに議論を深めて我々みんなでごみを削減する方法を考えていく必要がございますので、今後ともよろしく願いいたします。

次回の開催についてですが、いつ頃がよろしいでしょうか。

(各事業者)

レジ袋無料配布中止1周年記念等の検討をするためには、2月に協議会を開催する必要がある。

2月に協議会を開催する方向で準備することを決定。